

採石跡・与島の日常 映画に

高齢者7割運動会、祭り

高齢化率が7割を超える与島(坂出市)で、島民らの日常を切り取ったドキュメンタリー映画「与島く石に灯す未来の火」を、高松市のゲストハウス経営者、内田大輔さん(36)らが制作した。主題曲は解散したロックバンド「BLANKKEY JET CITY」のベーシスト・照井幸さん(53)が手掛けた。内田さんは「映画をきっかけに、少しでも島に注目が集まれば」と話している。(佐々木侖)



小与島の方向を指す内田さん。リゾートホテルだった建物も見える(与島で)

与島は古くから採石の島として栄え、1955年には1304人が暮らした。瀬戸大橋開通後は「橋で行ける島」として観光開発もされたが、バブル崩壊で人口も減少。隣の小与島と合わせた人口は75人で、高齢化率は70%を超える(昨年10月現在)。

内田さんは高知県で約10年間銀行に勤め、2015年8月、高松市にゲストハウス「トラディショナルアパートメント」をオープンした。外国人観光客が多かったことから、日本語と英語で香川を紹介する観光冊子を作成。各地の写真を多用し好評だったため、次の題材を探していた。

知人から「与島が大変だ」と聞き、16年2月、初めて島を訪れた。子供の姿は一切見かけず、飲食店もほと

高松の内田さんら制作「ブランキー」照井さん主題曲

んどなかった。ただ、あちこちに残る採石跡の切り立った崖は「写真映えがする」とも感じた。

島民と話し、その歴史も知った。採石業者は姿を消し、小与島のリゾートホテルは潰れて廃墟のように残っていた。目まぐるしい盛衰の歴史にひかれ、カメラマンと島へ通った。

動画も撮影した。学校がなくなった後も島民たちが続けられる運動会、祭り、採石業を諦めた人々の思い……。冊子の写真にスマートフォンをかざしてAR(拡張現実)で動画を見られる仕立てにするためだったが、撮り進めると、「ついでに映画にできるのではないか」と考えた。

主題曲は、照井さんに依頼した。内田さんが中学生の頃から憧れ、何度もライブに通ったバンドのメンバー。「怒られても仕方ない」という覚悟で東京に出向き、お願いしたところ、照井さんは快諾してくれた。「やる方も受け取る側も、心に残る感動を作ろうぜ」

取材に、照井さんは「住民が減って産業もなく、年

老いた人々が暮らしている。そんな映像を見て、あんまり明るさは印象になかった。でも、その人たちにとってはそれでいいのかもしれないと感じ、音楽で表現した」と話した。

2週間後に届けられた音楽は、淡々としたベースとドラムに合わせ、エレキギターが乾いた音で同じメロディーを繰り返す。やがて、汽笛のような音も響き始める。聴いた瞬間、内田さんは震えた。「絶対に良い映画にしなければと思った。5月中旬、島を訪れ、完成した冊子を島民に手渡した。与島連合自治会長の住谷一弘さん(72)は「今のままでは島が忘れ去られてしまう。目を向けてもらうきっかけになれば」と語る。

上映会は7月8日、高松市常磐町のBANKSビル2階で行われる。午後6時と同9時の2回で、前売り1000円、当日1500円(別途ドリンク代が必要)。冊子は10000円で、内田さんのゲストハウスで購入できる。問い合わせは内田さん(090・2893・2640)へ。